

## 第12回「県政ひざづめ談議」結果概要

開催日時：平成19年11月27日 14:00～

開催場所：中央市 道の駅とよとみ

### [司会者]

ただいまから、知事対話『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

本日の進行役を務めます県の広聴広報課長、田中でございます。

よろしくお願いします。

はじめに横内知事からごあいさつを申し上げます。

### [知事]

皆さん、こんにちは。

今日は皆さんそれぞれお忙しいところ、こうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。

今日は地産地消に中央市でご尽力をいただいている皆さん方にお集まりをいただいて『県政ひざづめ談議』をやらせていただきたいということでございます。

これはもうシナリオなしにざっくばらんに何でもお話をいただいて、実際ご苦労なさっている皆さん方の生の声を是非聞かせていただいて、そして県政の場に反映をし、地産地消をさらに拡大をしたいということでございます。

ざっくばらんに何でも結構でありますので、普段お考えになってる点をお話をしていたければありがたいと思います。

どうもありがとうございました。

### [司会]

それではここで本日出席しております、県とそれから市の担当課長と部長を紹介させていただきます。

県の農政部で果樹それから野菜の振興、地産地消などを担当しております西島果樹食品流通課長です。

同じく農政部で農業経営の改善、それから農村女性活動の推進などを担当しております山本農業技術課長です。

市の農業など、産業全般を担当しております相原農政観光部長です。

本日は中央市内で農産物を生産して直売所へ搬入している方、それから直売されている皆さんと「地産地消をより一層推進するためには」ということをテーマにして意見交換を行いたいと思います。

この『県政ひざづめ談議』は、参加している皆様とそれから知事とか普段着の意見交換を行うものであります。

県産の農産物の消費拡大を図りまして、それから地産地消を推進するためにどうすれば良いか。それからどんなことが必要かと、そういう観点で参加者全員で話し合いを進めていきたいと思っております。思うところ自由に活発に意見交換をしたいと思っております。本日いただいた皆からのご意見、それからご要望等は今後の県政の参考とさせていただきます。

だきたいと思います。

それから、本日の『県政ひざづめ談議』概要は、県のホームページで後で公表することとなっておりますので、この点は是非ご了解をお願いいたします。

よろしく申し上げます。

[参加者]

私は豊富の道の駅へ毎朝出荷しております。

できれば豊富の野菜全体をブランド化したいと、今年3月以降、役員会の中でその問題を取り上げてきております。

これは国の制度がありまして、今「やはたいも」がブランド化の商標登録が済んでいます。あとは印章の手彫りが、山梨県ではその2件がブランド化されて商標登録がされていると思うんです。

それで、申請につきましては農協とか農業団体というのがあるわけですが、道の駅は「搬入委員会」という組織を作りましたので、できればそれで認可してもらえれば一番いいんですが、是非ブランド化ができればということを知事さんをお願いしたい。

また、国のほうでだめだったら、一村一品運動というようなものもありますけれども、例えば中央市じゃ田富のトマトとか、玉穂のナス、豊富のスイートコーンというようなものの指定をしてもらえればいいかなと。

ちょっと希望が二つになりましたけれども、いかがでしょうか。

[知事]

豊富でできたものを全て何かというのはなかなか難しいかなという感じがしますね。

[参加者]

このゴールドラッシュ（もろこし）は関東一円で品質では有名です。

[参加者]

このモロコシは早い人はハウスで、5月のハウスから二重、一重のトンネル、露地という形でしているわけですね。

そして、毎年春にモロコシのイベントをするんですが、今年は6月の第一土曜日にしまして、去年は約2日間、土日で5万本、今年はちょっと早めにしまして物が間に合わないで、約3万5千ぐらい売りました。

[知事]

5万本2日で売れば大したものですね。

[参加者]

モロコシのイメージから脱却したいんです。

確かにモロコシが育ててくれた道の駅ですけども、そうすると秋が何もなくなってく

るんです。ないわけじゃないですけども、白菜とか大根とかあるわけですけども。そういう意味で一つご検討願えればありがたいです。

[ 知事 ]

豊富の野菜一切合切で何かというブランドというわけにもいきにくいかもしれないですね。やっぱり・・・。

[ 参加者 ]

それでは、一品であれば、モロコシをやってもらえれば・・・。

[ 果樹食品流通課長 ]

先ほどちょっとお話に出た地域ブランドは、どうも法人でないと、農協とか、ああいう法人でないとなかなかできないんですよ。

[ 参加者 ]

実施要領を読ませてもらいましたら、「等」がついていますから、等の範囲で対応していただければなと思って。

[ 知事 ]

また検討して返事をするようにしましょう。

[ 参加者 ]

お願いします。

[ 参加者 ]

旧玉穂町のすみれ会と申します。

私たちは農協女性部の役員をなさっていた人たちで10年前からテントから始めましたけれども、「た・から」や「豊富」とは、本当に段違いに小さく小さくしている仲間なんです。

農家ですので、普通の日はできませんし、毎週土曜日半日しかできないんです。

そんなところへ、今度たまたま大型スーパーが玉穂にも許可されました。私たちも県の事業で埼玉へ視察に行ったところ、そこではスーパーの中へ地産地消の場所をとって、すごく活発にやっているんですよ。

玉穂でもスーパーが出るので、新しく建てるよりも費用もかからないし、スーパーとの間を県か市とかで力添えいただいて、そういう一角へ地産地消の場所を設けられたらいいなと皆さんも話しているんですけども、そういうことはお力添えできますでしょうか。

[ 知事 ]

それは十分できることだと思いますね。これは中央市に話をするのが一番ですよ。中央市が区画整理を進めていますから。

ショッピングセンターはどこが入るんでしたっけね、マックスバリューか、マックスバリューの中に入れるかどうかともかくとして、どこか場所をね、うまい場所をね。

[ 参加者 ]

できれば地産地消の一角を、それはよそに建つよりお金がかからなくて・・・。

[ 知事 ]

農協さんはやってくれないんですか。

[ 参加者 ]

農協は中々関与してくれないんですよ、私たち農協の出なんですけれどもね。だからブレハブも自分たちで買ったり、本当に自分たちでやっているんです。

玉穂でもそういう場所を、そして会員も集めてやりたいなと思っているんですけれども、何しろ資金もかかることだし、そこで行きづまっちゃっているんですよ。

中央市にも2つも出ちゃっているの。

[ 知事 ]

中央市に2つできちゃっているから、なかなか農協が作りにくいですかね。

これはまあ分かりました。

[ 参加者 ]

我々も「た・から農産物」を去年オープンしましたが、「た・から」の周辺というのが全部、見渡す限り田んぼなんですよ、田植えが始まって終わるまでは稲がありますので、非常に景観的にもいいんですけれども、終わったあと土になります。

それでここにいる若い後継者のみんなと、菜の花畑を作る「菜の花プロジェクト」を立ち上げたんですけれども、たまたま話をした農家の方が快く田植えまでには返してくれればいいよということで、1.8ヘクタールを使えることになりました。

この農業というのが非常に観光と密接な関係があると考えているわけで、北海道に行ってジャガイモ畑、あるいはラベンダー畑を見ても非常に景観的には心も打たれるし、癒される。しかし原野だったら遊休農地が増えて、荒れているとやはり非常に不快感をもよおすということで、農業というのは景観形成上非常に日本に大きな貢献をしていると考えているわけです。

これから高齢化していくと一番懸念されるのは遊休農地だと思うんです。それを荒れさせないためにはどうすればいいかという対策で、手っ取り早いのはお花を植えて、そこである程度原野化されないように防ぐという形でこれから考えていきたいと思うんですけれども、もちろん集客ということも考えながら、農業を観光という視点から考えていただい

て、甲府盆地のど真ん中に県内最大級の菜の花畑という形でありますので、是非県としてもモデル地域に指定していただければ一番いいんですけども、そういった面で後押ししていただければ、そういった形で真似をしていただける所が増えていくんじゃないかと思うんです。

[ 知事 ]

農地はそれは遊休地ですか、それとも稲を刈ったあとなんですか。

[ 参加者 ]

刈ったあとの農地です。

点々と原野化された雑草が生えている畑もあったものですから、そこを若い人たちがボランティアで草を刈って菜の花を植えてくれたんです。

これから高齢化していく中で、こういったプロジェクトをモデル的な形で何らかの形で支援あるいは後押ししていただければ本当に若い後継者も育っていくんじゃないかと思うんです。

[ 知事 ]

ボランティアの皆さんがそうやって、やっておられることは大変な立派なことだと思いますが、中々、そうですね、菜の花、それで人が来るということになるかどうかですね。

そういう花で人が来るのは明野村のひまわりですね、あと河口湖町のハーブですね、ラベンダーね。

菜の花はいつから始めたんですか。

[ 参加者 ]

今年始めたんです。だから咲くのは来年の5月の連休です。

[ 知事 ]

5月の連休というと、もうそろそろ水を入れなければいけないでしょう。

[ 参加者 ]

田植えが6月頃始まりますから4月から5月にかけて咲かせておくんです。是非観光という面で、そういったものを後押ししていただければ。

[ 知事 ]

何かできることがあればですけどもね。

[ 参加者 ]

観光面で、今「風林火山」で山梨県もかなり集客というか、お客さんが来ている。うち

の道の駅もかなりのお客さんが入って賑わっています。

山梨県としてみれば、お客さんが寄ってくれる地域づくりというか、こういうところに道の駅を作ればお金を落としてくれる、農家にお金を落としてくれるという面で他県の人が寄りやすい山梨県を作っていたらいいなというのが私の要望です。

それから、ヤングコーンが消毒の農薬の問題でちょっとひっかかって、ここのところ販売はできないようになって、それが大体200万円くらい道の駅で売れていました。

せっかく売れるものを捨てて心苦しいとか、もったいないなという気もします。こういう全般的農薬の問題は何千万という費用がかかるというような話も聞きます。ヤングコーンは野菜だそうです、是非安全なものをお客さんに提供するというので、一つそんなような努力をお願いします。

[ 知事 ]

ヤングコーンは農薬で販売できなかったんですか。

[ 農業技術課長 ]

それぞれ品目ごとに農薬が決まっています。たまたまヤングコーンというのはトウモロコシの小さいものです。

現場のほうから要望も出ておりますが、これに使っていいよという農薬を登録しなければなりません。

新しい農薬とか、既存の農薬であっても試験等をしなければならなくて、経費がうんと業者にかかり簡単にはいかないのですが、そういうふうな部分で要望があればそういうものをマイナー作物ということで、国のほうにお願いしていきたいと思っています。

[ 知事 ]

特別な農薬ですか、ヤングコーンは。

[ 参加者 ]

あれは種についているんですがそれがだめだと。

今までは捨てていたんですが、もう4、5年たちますが、それを豊富ブランドで豊富の道の駅で売り出して、それが定着してきていたんです。

そしたら農薬の規制があるということで、私も役場に持ち込んだり、検査してもらったんですが、何かあってはいけませんから去年から売っていないんです。一昨年実績で250万円ぐらいの売上があったわけですから、何とか検査してもらってそれがクリアできれば売っていききたいなと思っています。

観光の話が出たんですけれども、豊富の道の駅がここまで伸びてきたというのは、一つはツアーが、野菜だけで野沢菜、ナス狩りというのが商品になり、今年度でも4万人ぐらいのツアーが入っているわけです。だから観光面を考えればトマトももちろんそうでしょうけれども、農産物で十分人を集めることはできると思うんです。

それでさっきちょっと言葉が足りなかったんですけれども、知事にブランド化というのをお願いしたわけなんですけれども、またうちのほうでデータを送ってもいいですから、4万

人のツアー客といったら大変ですよ。

[ 知事 ]

何か特別宣伝をしているわけじゃないんですか。

[ 参加者 ]

グリーンツーリズムが始まった時にもすぐ導入を引き受けたんです。それがずっとここに来て、今観光業者が中心ですけれども野菜を中心にやっています。

[ 知事 ]

特にPRを毎年しているわけではない。

[ 参加者 ]

PRというのはなかったですね。それほど金をかけてやったというのではないです。

[ 参加者 ]

平成12年にグリーンツーリズムという事業がありまして、それから始まったんですがバスが特に来るようになったんです。

バスも発車する時に35人くらい乗れば出発する、それ以外にも、中央高速道路に乗って1日のコースとすれば一番場所的がいいらしいですよ。それでいきなり、おい今行くよと朝電話が架かってくるバスも相当あるという話を聞いています。

今年の場合は7割くらいバスで、ここ3年でレジを通った人が約36万人くらいですから、100万人くらい来ているだろうというのが事務局サイドの集計であります。

[ 知事 ]

おそらく1日コースでどこかに行って、何か摘み取り作業みたいなものを体験したり、最後はここに寄って買って帰ると、こういうツアーが組まれているんですね。

[ 参加者 ]

目的は野菜なんです。

一番多い時、今年は1日に20台入っていますから900人くらい来ているんです。

だから野菜、今白菜が売店のほうで不足しているんです。ツアーのお客さんが1個ずつ持っていかれるから2千個はもう予約で出ちゃったという状態です。

[ 参加者 ]

関連してですけれども、菜の花畑の計画が山日に載ったんです、そうすると観光業者のほうから問い合わせがありまして、是非ルートに乗せて欲しいということ言われたんです。

ここで若い連中と検討した結果、まだ来年咲くかどうか分からないのに受けても困るので、とりあえず来年咲くのを確実に、自分の目で確かめてからと。その花畑というのが非

常に旅行者にとっては魅力らしくて、集客としてはやはり一番手っ取り早いのはお花をとにかく咲かせてもらえばお客さんは来るよ、「た・から」さんへトイレ休憩で寄らせて欲しいという要望がありましたけれども、その辺は検討課題として来年からということをやっているんです。

[ 知事 ]

インターネットでPRするのが一番手っ取り早いですね。こういう小人数のボランティアグループでやると、インターネットでするともう必ずお客が来ますね。

[ 参加者 ]

生産者の努力している点をちょっと申し上げたいと思います。それは、安全、安心な農作物を生産しているということです。

減農薬、有機栽培、有機栽培は豊富地区の場合は「とよとみクリーン」といって汚泥95%、それから残飯5%の有機肥料を生産してそれを使っていますが、汚泥の肥料というのはある程度のミネラルがあるかと思うわけでございます。

[ 知事 ]

汚泥というのは下水汚泥ですか。

[ 参加者 ]

はい。220名の搬入者全ての方がそういう目標を持っておりまして、お陰様で買いに来て下さるお客さんも最近ご理解されまして増えてきました。

設立当時の平成10年には年間売上が7千万だそうですが、今その数倍で、全国に道の駅が8千箇所あるそうですが、その売上が平均1億前後だそうですので、豊富道の駅はその数倍ですから断トツでございます。

お陰さまで、地域経済の活性化にもなっておるわけで、ありがたいことでございます。これからも努力して参りたいと思います。

[ 知事 ]

素晴らしいことですね。

[ 参加者 ]

豊富地域は合併する前から猪、熊などが出没してしまっていて、大変被害を被っております。統計によりますと平成16年は猪を27頭、カラスを77羽、17年には猪12頭、カラス85羽、18年は大変な騒ぎになりまして猪68頭、熊1頭、カラスは190羽捕ったというようなことです。

本年は猪に、皮膚病が流行って生息が若干落ちまして10頭、そしてカラスは69羽という9月までの結果ですが、これ以外にも個人的に保護したり退治したりとしてあるから



数字はもっと上だと思えます。

そして豊富のモロコシは、後継者が余りいないため年配者が相当がんばっているわけですが、去年の勢いで猪が出没したら、今年のコロモシは、弱ったなという農家の状況でありますし、道の駅に出すジャガイモ、サツマイモというようなものも、5月の初め頃からもう食べられているというような状況でございます。

農家によっては電気柵を個人的に購入しまして付けている方が大変多いわけでございます。安いのでバッテリー付きで6、7万かかります。ソーラー式になると距離にもよりますがけれども10万から20万くらいソーラーでします、そのくらいの金額になるわけでございます。

市長さんにもお願いした経過があるわけですが、努力している農家の人たちのためにも、若干でも購入に電気柵の補助金の手だてはないかというのが農家の多くの人声でございますので、ここで知事さんをお願いするわけでございます。

[ 知事 ]

電気柵に対する助成制度は当然ありますので、それは市を通じて申請していただければ、まあなかなか申請があちこち多いですから、すぐというわけに行くかどうかは別にして、またある程度一定の規模でないと、余り個人個人というわけには行きませんですしね、まとめてもらって申請すればいいと思えますね。

[ 参加者 ]

手作りハムのことですが、ここに平成14年にハム工場、漬物工場、味噌工場と3つの加工場ができました。

現在は週に豚の肉の搬入は13頭しております。山梨県下でもハム工場がございますが、おそらく一番量産しているのではないかと思います。

地元産富士桜ポークの地産地消ということで、地元で安心して安全な給食の日という日がございまして、小学校でも最近では使ってくれるようになっておりますが、是非とも、地元産の富士桜ポークというブランド品でございますので、できるだけ色々な場面で利用していただきたい、地元で一生懸命優れた能力を持った母豚を飼い、そして肉を販売していますので、これからも利用していただきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

[ 参加者 ]

地産地消ということで、地元の野菜は例えば何がいいのか、より新鮮で栄養価が高いということをもっとアピールするとか、広報としてやっていくことがいいと思えます。

学校給食に利用していただいているという話がありましたけれども、給食の時間の前に子どもたちに今日はどここの誰々さん家の野菜を使ってこういうものを作りましたみたいな話をするとか、新鮮な野菜はどういう栄養価が高くて、自分たちにとって、何がいいものなのかということをもっと勉強してもらうことによって、地元の野菜の価値が上がってきて、地元産の野菜を買っていただくという意識が高まるのではないかと思います。

[ 知事 ]

そうですね、それは大事なことですよね、地元の物を使っているというのは大事なことです。

小学校、中学校の給食となると市町村の教育委員会ですから、地元の中央市さんになっていますね。

[ 参加者 ]

先程の猪の柵の問題ですが、自然の体系が崩れたから猪がかなり里に下りてきていると思います。

狐が放せませんかね、狐は猪の子どもを捕るのですよ。

柵もありがたいんですけども、今度は柵の中に入った猪が帰れないわけです。そこで子育てをして増えているんです。

だからそういう対策が取れば猪の問題とかはかなりの部分でクリアできるんじゃないかなと思っているんですがね。

[ 知事 ]

それはちょっと研究してみましょう。

[ 参加者 ]

知事の公約の中で、優良農地の確保による農業生産活動の安定化を前に上げていらっしゃるんですけども、私たちもそうなんですけれども、現在農業は高齢化と後継者不足で悩まされております。遊休農地の荒れ果てたところがこの頃平地の農地に多く見られるようになってきたんですね、。

その対応というか、農業生産活動の安定化を図る県の施策みたいなものが何かおありでしたらお話ししていただきと思います。

[ 知事 ]

果樹園でもかなり遊休農地が増えてきているんですけども、やはりこの辺りの野菜畑だとか田んぼにも遊休農地は増えてきましたか。

[ 参加者 ]

増えてきましたね。

[ 知事 ]

結局後継者がいなくて、後継者はどこか勤務はしているんでしょうけれども、そんな面倒臭いことは嫌だということなんでしょうね。何かやっぱり通常北巨摩辺りであれば、田んぼであればその田んぼを借りてかなり一人で20ヘクタールぐらい耕したりする人がい

ますが、こっちにはそういう方々はおられないですか。

[参加者]

借りている人たちも段々高齢化で、逆にお返しをしたいというようなことがあるんですね。そうなるとやっぱり遊休農地が・・・。

[知事]

結局担い手の問題ということになりますね。そういう方々というのは多少でもあれがあればどんなところにも貸したいという感じですかね。

[参加者]

反収が上がる作物で、県で奨励するものでもあれば、例えば政策で大豆を作って、その大豆が高く売れる分なら皆さんも作るだろうけれども、今のところ大豆を作るのにも大変ですし、だから空いてしまうのですよね。

[知事]

これは農業の一番大きい課題ですよ。担い手不足というか後継者不足がね。

[参加者]

収入が多ければ絶対あると思うんですよ。

地産地消は徹底していますし、給食の話もさっき出ましたけれども、もう幾年か前から使ってもらっているんですよ、それから今大豆の話が出ましたけれども、豊富の豆を使った味噌は間に合わないくらい売れています。

そういう形で売上が伸ばしていくほかないんですよ、農家というのは。

[知事]

やっぱりここに入っている農家というのは1軒200万円かその辺は取れるでしょう。

[参加者]

そこまでやっていないですよ。今180何名ですから2億5千万円といっても、120～130万円くらいですけども。

[参加者]

知事さんね、農業所得、収益が上げれば勤めを辞めて農業をしますよ。それは簡単な話しですよ。収益が上がれば、それは勤めをしているより自由で、空の下で自由に仕事ができますから、それは農家が増えますよ。それができないから農家が減っているということですよ。

[参加者]

この4人は羨ましいですよ。うちの村に入ったらいいですよ。

[ 知事 ]

農業を専業でやっているわけですか。

[ 参加者 ]

はい。

[ 知事 ]

何をやっているわけですか。

[ 参加者 ]

僕は花をやっています。

[ 知事 ]

花というのはシンビジウムや蘭みたいな花ですか。

[ 参加者 ]

カーネーションの苗を作っています。

[ 知事 ]

苗をね。小さいカップに入っているあのようなものね。

[ 参加者 ]

切り花農家に出荷しております。

[ 知事 ]

どのくらい、1ヘクタールくらい、ハウスをやっているんですか。

[ 参加者 ]

ハウスでやっています。

[ 知事 ]

お宅は何をやっているんですか。

[ 参加者 ]

うちは色々やっているんですけども、ハウスで白瓜、露地でナス、トマトも少し。

[ 知事 ]

そうですか。どのくらいやっているわけですか。

[参加者]

白瓜は2反ぐらいですね。ナスも2反。

[知事]

それじゃだけど食っちゃいけないでしょう。

[参加者]

いや、大丈夫ですね。

[知事]

もっと空いているんだから借りてどんどんやったらどうですか。

[参加者]

いっぱいいっぱい、やっぱりナス2反というと本当に・・・

[知事]

ナスも夏の盛りで暑い時はえらいですな。じゃあいいナスを作っているということでしょうね、きっとね。

あなたは何をやっておられるんですか。

[参加者]

トマトです。

[知事]

ハウスでやっているんですか。

[参加者]

はい、ハウスです。

[知事]

1千万農業になりますか。1千万円になればね。

[参加者]

うちはハウスできゅうり。あと田んぼで水稻、あと田んぼは自分たちでできない人たちの受託、請負で稲刈りやったりとか。

[知事]

何ヘクタールですか。

[ 参加者 ]

自分の家でやっているのは大体1ヘクタールぐらいかどうかですね、田んぼだけで。

[ 知事 ]

まあ農業で1千万農業になればいいけれども、1千万農業というのは中々・・・。

[ 参加者 ]

この店で1千万以上売り上げた人がいます。500万以上だと20人ぐらいいるんじゃないですか。

[ 参加者 ]

ちょっと提案があるんですが、東国原知事じゃないですけども、やっぱり知事がうまいよと言えば絶対皆さん思うんですよ、ああ田富のトマトは、あそこはやっぱりトマトがうまいよと。もう知事のひとことで世間の人たちというのは考えが変わりますから、じゃあちょっと食べてみようかしらという、そういうことも是非。

[ 参加者 ]

いつか知事はすぐセールスすると言ったことを覚えていますから、是非ブランド化して、それは知事、これはブランドだよと、絶対に安全で大丈夫だよというのを言ってもらって発信してもらえば、それは農業の活性化間違いないです。

[ 知事 ]

今桃から始めているんですがね、桃とワインから。ゴールドラッシュまでは行かないんだよね。

[ 参加者 ]

次はゴールドラッシュとトマトを是非お願いします。

[ 参加者 ]

どんどん持って行って食べてもらって、トマトはもう田富だと。

[ 参加者 ]

ここに報道陣がいたらトマト食っているところを写真を・・・。

[ 参加者 ]

そうです、そのとおりです。それだけで結構です。

[ 知事 ]

直売所も今百幾つになってちょっと多過ぎるぐらいな感じになってきたようですね。

[ 参加者 ]

メンバーと細々直売所をしていますけれども、野菜だけではやっぱり品が空いたりします。それで加工の物で味噌類とか菓子類をJA玉穂の加工センターをお借りして作ったものを持っていくんですが、先ほどの話で玉穂に出るスーパー予定地の中に直売所をもし地産地消で作っていただければ、その横に加工センターを一つ併設していただければメンバーもやりやすいのではと思います。

今、味噌とか菓子類を入れて一緒に販売して、とても売れ行きもいいですし、是非そういう点も合わせてお願いしたいなと思います。

[ 知事 ]

週1回やっているんですか。

[ 参加者 ]

そうなんです、土曜日に。おばあさんが売るので・・・、美人な店員さんでも置けばいいんですけれど。

[ 参加者 ]

一番心配なのは、前に温泉ブームで各市町村で温泉を作ってそれが下火になっちゃって、道の駅直売所もその懸念もなきにしもあらずと私自身思います。

先程来、知事が先頭を切ってPR作戦という話も出ていますが、東国原知事じゃないけれども、やっぱりああいう姿勢も欲しいなと、是非お願いしたいと思います。

[ 知事 ]

まあタレントだから、あの人だと何かをやってもすぐ全国テレビが撮ってくれるから、あれは得じゃありませんかね。こっちはなんぼやってみても地元テレビも撮ってくれないから困るんですよね。

[ 参加者 ]

いや、長い実績で出るかもしれないから努力してもらって・・・。

[ 参加者 ]

私はすみれ会の朝レジだけお手伝いさせてもらっています。やっぱり今皆さんから出たような意見で、そういう大きい場所の一角でいいですから置いていただければ、今まで以上に売上があると思います。

場所は固定資産税分を払いながら貸してもらっている土地なんですけど、その割には売上が余り伸びないので余り儲かっているかどうか分からないんです。場所が決まればいいのですが、そこをどいてくれと言われたらまた移動しなければならない関係になりますか

ら、できましたらやっぱりある程度固定した所で、さっきの意見ではないのですが、ちょっと端のほうをお借りできればと思います。

[ 知事 ]

ただ、どこにもみんなお店が店を閉めちゃって、昔ながらの色々な雑貨屋さんだ何だ空いた店舗というのはたくさんありますよね。ああいうものじゃだめなんですかね、貸してくれないですか。やっぱり高い家賃を取られてだめですか。

[ 参加者 ]

高いですね。

県の方で、そういう所に入れる大規模集客施設への立地に関する方針というのはないですかね。

[ 知事 ]

それはあるんですけどもね。地元貢献みたいなことをやるようになっていきますから、これは今年の11月末から始まるわけですけども、今度はそういう新しいショッピングセンターができたりする時には地元に対して一定の貢献をしてくれというのをやっていますから、皆様方のような、まあ地産地消などは一番あれですよ。そのスーパーマーケットが地元産の品をまず積極的に販売するというようなことから始まるわけですけども、皆様方がちょっとしたコーナーを設けて、そこで売る、そういう機会を持つてくるということは十分可能性としてはあると思うんですよ。

[ 参加者 ]

前に大手スーパーで県の方がみえて一緒に年に1度やったことがあるんですけども、それが今年からなくなってしまって、だからそういうような場があれば・・・。

すみれの場合は今、県のフルーツ公園から祭りがあると、出してくれますかと言われてまして、そこへは出しているんですけども。

[ 知事 ]

皆さん、普段は週1回店は開いているわけでしょう。週1回じゃ少ないじゃないですか。

[ 参加者 ]

生産者なので、普通の日では中々できないんです。土曜日だけお休みなので、その日で始めたんですけども、もう少し増やしたいなといっても、人を雇うわけにもいかないし。

[ 知事 ]

例えば農協であれば梨北農協が響が丘に出していますね。

あれは自分の店舗を持っているんです、「よってけし」ですね。

あれは売れていますよ。あれは年間どのぐらい。



[ 果樹食品流通課長 ]

3億円ぐらいです。

[ 参加者 ]

北巨摩の人たちは長坂の大型スーパーの中へ地産地消のコーナー設けていただいてやっているようですね。

[ 知事 ]

確かに皆様方、専業農家でやっておられる方々が片手間でやっているのはちょっと大変ですよ。だれかがきちっと提供して管理をしてくれないとね。

そして皆さん方が安心して作ってそこに持っていけばいいというような格好にしないとね。

[ 参加者 ]

夏場など野菜がたくさん出ますので無駄が出ちゃうんですね。

皆さんのように、国道は通っていないし、道の駅というわけにもいかないし、市長さんにも何とかお願いに行こうかなんとも言っているんですけどね。

[ 参加者 ]

ツアーで豊富には1年間に相当な車が入り、ツアーの人たちには詰め放題とか、お土産コーナーとか、そういう収穫体験とかをやっていますが、お客さんには豊富の野菜はおいしいというのが大分評判になっています。

段々段々ツアーが増えてきているので、県内の他の市などに呼び掛けてこの道の駅で販売しています。

とてもおいしいというのが評判ですので、桃・さくらんぼの果樹はずいぶん山梨県では他県へPRしているけれども、野菜についてやはりもう少しPRしてほしいと我々生産者としては感じております。何とかお願いします。

[ 知事 ]

ぶどうや桃などは、これから市場に出る時に大田市場に行ってPRしてみたりとか、そういうことをやりますが、野菜というのはほとんど四季折々出ているから中々難しいところがありますけれども、大田市場はやっぱり野菜のコーナーがもちろんあるんでしょうね。

[ 果樹食品流通課長 ]

あります。今年からでしたけれども、トウモロコシは果物ほどではなかったですけども、首都圏で山梨フェアをやって、トウモロコシはPRをしました。今年から始めました。

[ 知事 ]

野菜のPRも確かにおっしゃるとおりです。

[ 参加者 ]

今日のこのように、直接知事さんとお話をする機会などなかなか無いことです。

私たちが普段頼りにするのは普及員の方々です。今までは峡中に農務事務所がありましたけれども、中北農務事務所になりスリムになってしまいました。エリアが広がってとても大変だと思うんですけども、前のように飛び出して来て下さる体制づくりを是非お願いしたいと思います。

[ 知事 ]

こういう直売所に出したりする方々というのは、いつどういう物を出せば一番売れるのかとか、そういうことの情報というのは欲しいはずですね。

[ 参加者 ]

今までは峡中とか本当に細かく置かれていたんで、とても相談しやすかったんですね。何か今度すごく遠くなっちゃって・・・。

[ 農業技術課長 ]

皆さんのそういうお声を聞きながら、今の体制でそれぞれの場所で今一生懸命努力しています。

きめ細かな、また迅速に対応できるようにということで色々我々も検討しております。

是非知事さんと相談させていただきながら、その声に少しでも近づけようということで努力しています。職員はがんばっておりますので、是非よろしく願いいたします。

[ 参加者 ]

是非早く、知事、現場を近くに。

[ 参加者 ]

一つお願いがあります。豊富村の時には農業指導者が2人いたんです。今は果樹専門の人が辞めまして1人になりました。

市の部長がいますけれども、できたら是非県のOBでも見付けてもらって、道の駅のこと全部その人がほとんどやってくれまして、ここまで来たのもそういう影の力があつたから来たので、是非。

[ 中央市農政観光部長 ]

その関係で、つい先週も副市長と県へ行って、来年の退職される県OBを何とかお願い

したいということで実際に歩いております。なるべく早く期待されるような方をお願いしたいと思います。

[ 知事 ]

そうですね、お役に立てるような人がいればいいですね。

[ 参加者 ]

是非知事お願いします。

[ 司会 ]

予定の時間になりましたので、感想を含めて最後に知事からまとめということでお願いします。

[ 知事 ]

大変に貴重なお話を聞かせていただきまして本当にありがとうございました。

皆様方が色々な課題がある中で一生懸命野菜を中心に農作業をして、この道の駅を拠点としてがんばっておられるということに対して、本当に改めて敬意を表したいと思います。

色々なご注文があって、できるだけ可能なことについては市とも相談しながらやりたいと思いますけれども、もっともこの直売所を活用して地産地消を拡大していく、このまま山梨の農業を放っておくと遊休農地がどんどん広がっていった大変なことになると思うものですから、農業ルネサンスということで未来に夢が持てる後継者が育つような農業を是非実現をしていきたいということで、今盛んに検討しているところです。

今日皆さん方からいただいたご意見もそういうものには是非反映をしていきたいというふうに思っております。

どうも皆さんありがとうございました。

[ 司会 ]

それでは『県政ひざづめ談議』を終わりたいと思います。